

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 21年7月－輸出は緩やかな増加基調を維持

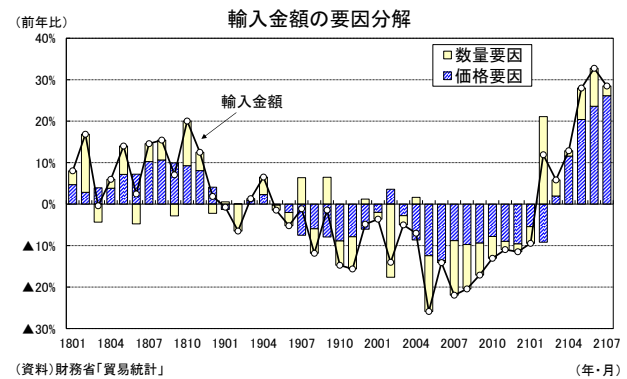
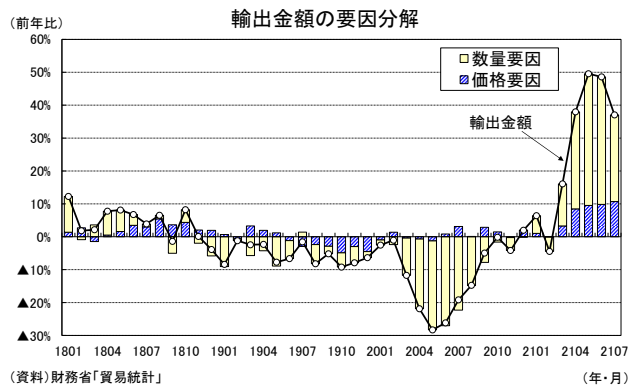
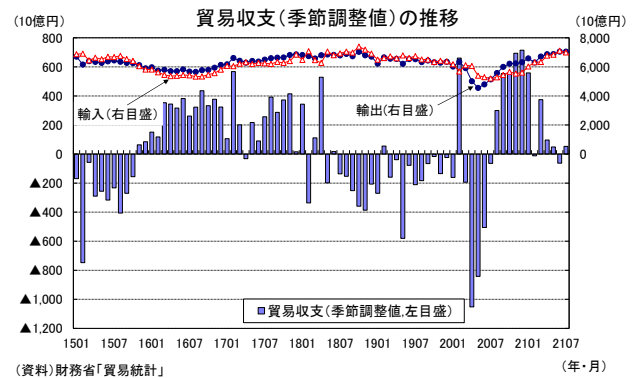
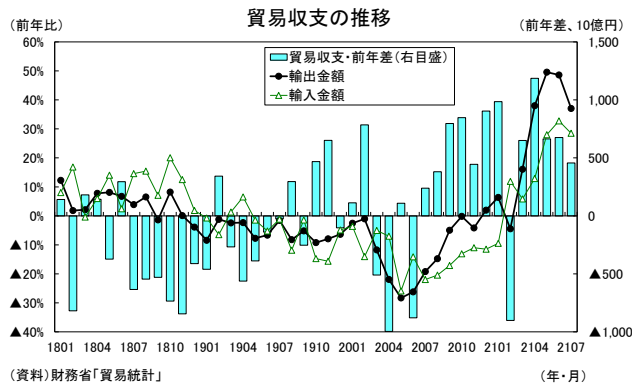
経済研究部 経済調査部長 齋藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 輸出入ともに高い伸び

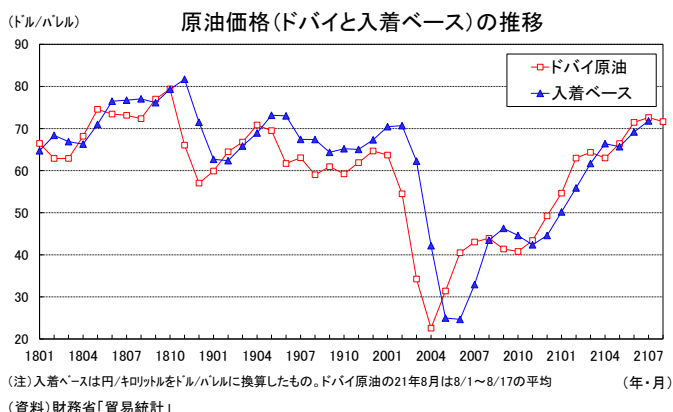
財務省が8月18日に公表した貿易統計によると、21年7月の貿易収支は4,410億円の黒字となり、事前の市場予想（QUICK集計：1,946億円、当社予想は4,157億円）を上回る結果となった。コロナ禍で前年に大幅に落ち込んだ反動で、輸出入ともに前年比で高い伸びとなったが、輸出の伸び（前年比37.0%）が輸入の伸び（同28.5%）を上回ったため、貿易収支は前年に比べ4,558億円の改善となった。輸出の伸びは6月の前年比48.6%からは大きく低下したが、これは前年の落ち込みが6月（前年比▲26.2%）から7月（同▲19.2%）にかけて緩やかになっていたため、輸出が実態として大きく減速しているわけではない。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比25.2%（6月：同37.2%）、輸出価格が前年比9.5%（6月：同8.3%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年2.1%（6月：同8.2%）、輸入価格が前年比25.9%（6月：同22.6%）であった。



季節調整済の貿易収支は527億円（6月は▲627億円の赤字）と2ヵ月ぶりの黒字となった。輸出が前月比▲0.0%の横ばいとなる一方、輸入が同▲1.6%の減少となった。

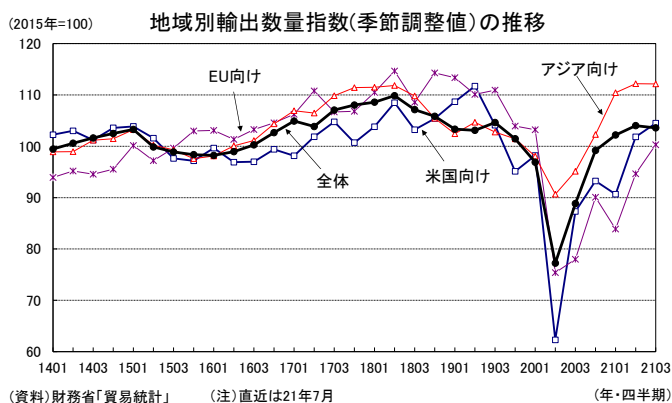
7月の通関（入着）ベースの原油価格は1バレル=71.8ドル（当研究所による試算値）となり、6月の69.2ドルから上昇した。足もとの原油価格（ドバイ）は60ドル台後半で推移しており、通関ベースの原油価格は8月も70ドル台前半となることが見込まれる。



2. 欧米向けの輸出が回復

21年7月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比19.5%（6月：同79.8%）、EU向けが前年比40.0%（6月：同25.9%）、アジア向けが前年比20.4%（6月：同26.1%）、うち中国向けが前年比12.1%（6月：同23.6%）となった。

21年7月の地域別輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前月比▲1.1%（6月：同4.8%）、EU向けが前月比6.3%（6月：同▲3.5%）、アジア向けが前月比1.1%（6月：同▲0.6%）、中国向けが前月比▲2.5%（6月：同4.9%）、全体では前月比▲0.9%（6月：同0.0%）となった。



7月は米国向けが前月比でマイナスとなったが、7月の水準を4-6月期と比較すると、米国向けが2.6%、EU向けが6.0%上回る一方、アジア向けは▲0.0%のほぼ横ばいとなっている。輸出の牽引役となっていたアジア向けが減速する一方、ワクチン接種の進捗に伴う行動制限の緩和によって景気の回復基調が鮮明となっている米国、EU向けが伸びを高めている。世界的な設備投資の回復やデジタル関連需要の拡大を背景に、資本財、情報関連財を中心として輸出は緩やかな増加基調を維持している。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。